

阿佐谷 たぐあさ

レッツ・スウィング! ジャズ特集

創造性豊かで文化が薫る大人の街、
中央線・阿佐ヶ谷で味わうジャズミュージック。



阿佐ヶ谷在住のジャズ・ミュージシャン小田陽子・智昭姉弟が語る

街と人が響き合う、ジャズの街・阿佐ヶ谷の魅力



大阪・チリ・そして杉並へ

陽子：生まれは大阪の豊中。親が転勤族だったのであちこち行って。住んだのは茨城県日立市でしょ。東京でしょ。大阪でも2箇所くらい。それから南米のチリ。お父さん外交官ですか? 調べて聞かれるんだけど、鉱山会社チリで住んでいたのは赤道の近くで暖かめ、春夏秋冬の区別がほとんどないところだった。

智昭：俺も生まれはチリだよ。陽子：杉並には元々おばあちゃんが住んでいて拠点があったの。そこに今私が住んでる。

智昭：俺が阿佐ヶ谷に住むようになったのは19歳くらい。それまでは寮に入っていたから。

阿佐ヶ谷ジャズ・バー巡り

智昭：20歳くらいの頃は地元では飲まなくて23歳くらいで飲みに行こうと思って最初に行ったのがクラヴィアアだったね。当時はパールセンターのビル2階にあって、中からママさんが話している声が聞こえるんだ。けどはじめの2回くらいは入るの

が怖くてそのまま降りて帰ってきた。3回目くらいで入ってみてジャズバーって怖いところだと思っていたけど、こんなに居心地がいいんだと思う。

陽子：ジャズ・バーって確かに気を遣う感じはあるかもね。周りのお客さんもこちからしてみたら「ミック」な人が多くて。

智昭：ミックなお客さんもいるけど、そこまで知らなくても大丈夫だとわかったし。クラヴィアが阿佐ヶ谷のバー・デビューで、次にマンハッタンに行ったの。その当時は会員制って書いてあった。当時はあちこちの店で「会員制」ってやってたんだって。一見さんもお客さんだけじゃないって、最初から入るんだって。いざという時に断れるようにね。その時はまだマスターの望月さんが夜まで赤坂でピアノを弾いて、夜0時くらいに帰ってくるので、それまで女の子がバンドをしてたんだって。まだ店内で漫画家や役者が集まるようなお店だった。もしかしたらマンハッタンがドラムを続ける転機になった店かもしれない。

陽子：望月さんは当時お店でピアノを弾いたりしてたの? 智昭：それはしていた。ある時、常連のベージストがいて、ちょっと演奏してみようかと言って、ドラムを持ち込んで、望月さんがピアノを弾いて、深夜演奏し出した。それがマンハッタンでジャズセッションの始まりなんだよ。なんて言われてその気になっちゃって道を踏み外して(笑)。

陽子：それは残念だったね(笑)。私もマンハッタンで2回くらいライブ演じてる。

智昭：俺がドラム叩いて一緒にやっているんだよ。あれはもう阿佐ヶ谷ジャズストリートが始まっていたから95年くらい。

陽子：そう、ジャズストリートはあそこ

こから始まっているからね。あそこにジャズ好きの街づくりをやる人たちが集まったみたいだけど、とにかく一回やってみようという事になった。その時にラテン・ジャズ・メッセンジャーズっていう名前で開催してね。智昭：望月さんが勝手に付けちゃったんだよ! 俺はもったかつこい名前にしよと思ったのに(笑)。

阿佐ヶ谷スタックアート

陽子：スタックアートのみどりさんは印刷会社の社長さんをやっていて、ジャズストリートに参加したいという事なので初めて行ったのかな? 最初はお客様も少なく、まだまだライブっていうところじゃなかったんだけど。感じのいいお店だから、そのうちミュージシャンがミュージシャンを呼ぶという感じで、だんだんジョーロとかのブラジル系音楽のライブが多くなってきて、スタックアートのライブは阿せハズレがないの。

智昭：あそこは眺めがいいよね。あれだけでもリッチな気持ちになれる。の日にスターロード祭り、パールセンターでハロウィンをやっていた年もあって、阿佐ヶ谷 大丈夫。 というくらい盛り上がりがあったね。

陽子：ローカルなんだけど、大きなスポンサーがついているイベントとは違う手作りの良さがあるよね。来た人も飲み屋に行くとか楽器を持ったミュージシャンに会ったり、そういうのが面白いんじゃないかな。最初はジャズストリートもそんなにうまくいかないんじゃないかなと言われたりしていたけど、うまくいくと祭りっていいものだねという気持ちになって、自分たちもイベントをやる気になるみたい。

2022年10月
21日(金)
22日(土)
2日間開催



阿佐ヶ谷ジャズストリート

「阿佐ヶ谷のまちをジャズで明るく楽しいまちに」を合言葉に1995年にはじまったイベント。チケットを購入してジャズを楽しむパブリック会場、ライブハウスやレストラン、カフェなどが独自にコンサートを行うバラエティ会場、広場や路上で演奏が繰り広げられるストリート会場の3つのパターンでジャズを楽しむことができます。

【小田陽子】大阪生まれ、東京育ち。小学校の3年間は南米チリで過ごす。高校・大学時代からギター弾き語り。1982年キングレコードよりデビュー。歌手・作詞作曲、ラジオDJ、司会、執筆など幅広く活動。

【小田智昭】ドラム、コンガ奏者。1961年南米チリ生まれ。兵庫、東京育ち。慶大中退、米国立LAの音楽専門学校M.I.卒業。ソウルジャズ、ラテン等、幅広く活動。阿佐ヶ谷に住んで地元での演奏夜の飲み屋街パトロールに忙しい。

ASAGAYA DEPARTMENT STORE
阿佐谷百貨店

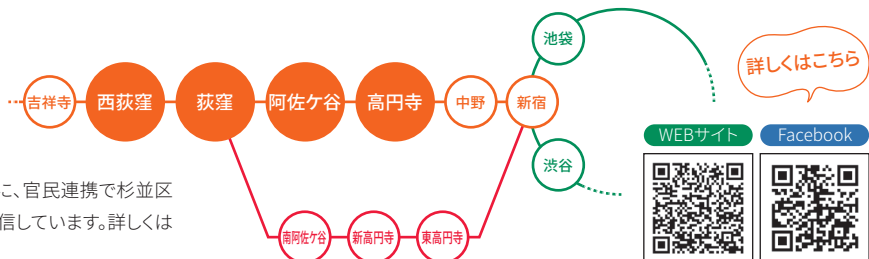
まるごと楽しむ、阿佐ヶ谷。

阿佐谷百貨店は、阿佐谷ジャズストリート実行委員会が運営する「まるごと楽しむ、阿佐ヶ谷。」をコンセプトとした仮想の百貨店です。地域のお店とお客様をつなぐ街のポータルサイトとして、飲食店・物販店・サービス業・音楽・エンタメなど、阿佐ヶ谷の様々な業種のお店の情報が集まっています。

なみじゃない、杉並!

中央線あるあるPROJECT

中央線あるあるPROJECTは「なみじゃない、杉並!」を合言葉に、官民連携で杉並区内の中央線沿線(高円寺・阿佐ヶ谷・荻窪・西荻窪)の魅力を発信しています。詳しくはWEBサイトまたはFacebookページをご覧ください。



阿佐ヶ谷の
情報満載!



なみじゃない、杉並!
中央線あるあるPROJECT

ASAGAYA DEPARTMENT STORE
阿佐谷百貨店

1

音楽、お酒好きが集まる阿佐ヶ谷の台所

のみくい処 青月

盛り合わせ3種
¥600(税込)

音楽と料理をコンセプトに、スターロードのビル3階で仲良し夫婦が営む居酒屋。ミュージシャンとして活動する夫の青木リョータさん、子どもの頃からジャズに馴染みのある妻あやさんと音楽トークに花が咲く。スパイス料理をはじめ丁寧に作られたジャンルレスの創作料理も楽しめる店。

住 阿佐谷北2-2-1 3F

営 18:00-24:00

休 火・水



2

極小ライブハウスで聴くほほ生音のジャズは迫力満点

MANHATTAN

ヒューガルデン・ホワイト
¥750(税込)

1938年生まれで現役のピアニスト／アコーディオニストの望月さんが1985年に開店したライブハウス。料理好きの望月さんが作るピザやパスタなどの食事メニューも。目の前で繰り広げられるジャズ・ライブは圧倒的な迫力で、若いプレイヤーが多く出演する登竜門的なお店。阿佐ヶ谷のジャズの歴史に欠かせない一軒。



住 阿佐谷北2-2-7 3F 電 03-3336-7961 営 19:00-22:30 休 月・火

3

隠れ家のような趣きあるジャズ・バーでレコード鑑賞を

どんがら 鈍我楽

オールド・クロウ(ソーダ割)
¥600(税込)

1966年に21歳でジャズ喫茶を始めたジャズ・筋のマスターが営む老舗ジャズ・バー。60～70年代のモダン・ジャズを中心にアナログ盤のコレクションは約2,500枚。リクエストもでき、歴史を感じるレコードリストも必見。バーボンを中心にお酒を楽しみながら世代を超えてジャズや美術、映画などの会話が弾む店。

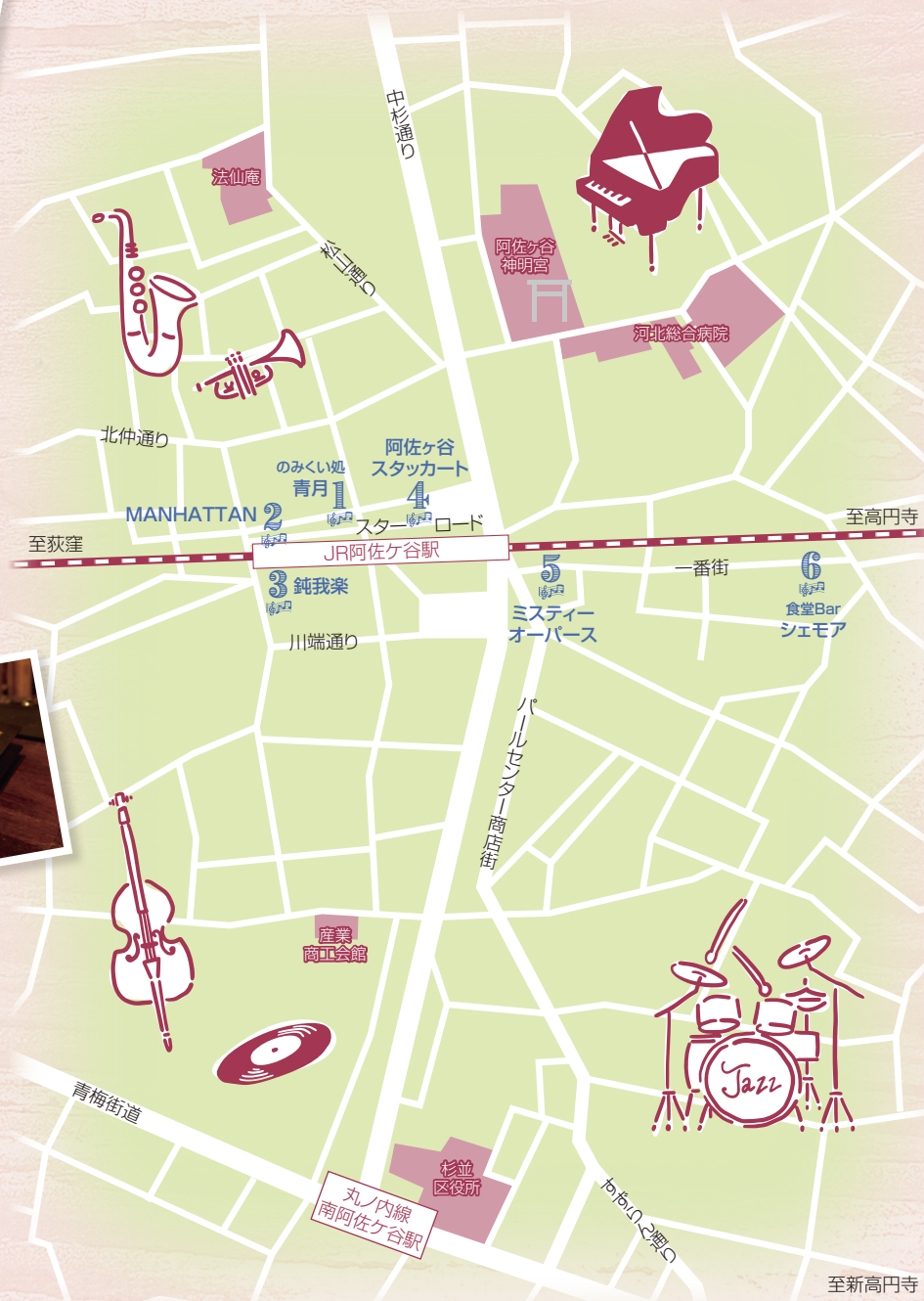
住 阿佐谷南3-37-11 営 20:00-翌2:00

休 日

阿佐ヶ谷 たぐあふき

レッツ・スウィング! ジャズ特集

心地良いジャズを楽しみながら、ちょっと大人な食事とお酒。
阿佐ヶ谷であなたのお気に入りのお店を見つけてみませんか?



4

大人の音楽、大人のお酒を楽しめる駅近くの別世界

阿佐ヶ谷スタックカート



住 阿佐谷北2-1-1 6F

営 19:00-23:30 休 日・祝

ラム / クラフトジン
¥800(税込)より

落ち着いた雰囲気のカウンター越しの眺めもよいライブバー。ジャズを始め、ラテン音楽などのライブを開催し、演奏者のレベルの高さとライブの質に定評がある。パーティムはノーチャージでゆったりと会話やお酒を楽しむことができ、国産ウイスキーやルーマニアワイン、クラフトジンなど珍しい銘柄のお酒も取り揃える。

5

大きな扉が目印のジャズが流れる居心地よいカフェ&バー

ミステリー
オーパース

1991年開業、現在は2代目で夫婦が経営するカフェ&バー。ホテルで料理人修行を積んだマスターが腕をふるう豊富な食事やおつまみ、カクテルが自慢。ランチは焼きカレーや焼きサンドイッチ、ディナーはピザや温野菜サラダが人気で、自家製コーヒーゼリーなどもあり、時間帯を問わず気軽に利用したい。

住 阿佐谷南2-16-8

電 03-3317-3434

営 11:00-24:00

休 日

焼きサンドイッチ
¥1,000(税込)

6

非日常空間のビストロでジャズに聴き入る

シェモア CHEZ MOI

お任せ前菜盛り(バケット付き)
¥1,500(税込)

住 阿佐谷南2-21-16 電 080-7414-6697 営 18:00-24:00 休 日・月



「パリの片隅に古くから佇んでいるようなビストロ」をイメージした店内で流れているのは雰囲気ぴったりのジブシージャズ。非日常的だが心地よい空間でここが阿佐ヶ谷だということを忘れてしまう。元パティシエの店主が作る料理はワインとの相性もよく、前菜盛りを始め、ガレットも人気。1人でもゆっくりと過ごせるカウンター席と、2・3人用のテーブル席もあり。